

G 6閣僚会合等の結果概要

平成18年7月
農 林 水 産 省

G 6閣僚会合

1. 日時・場所: 7月23日(日) 10:20～23:30 於: 米国代表部
24日(月) 11:10～12:00 於: WTO本部
2. 出席者: 我が国 中川農林水産大臣、二階経済産業大臣、木下農林水産審議官、村上特別補佐官、吉村国際部長、北村経済産業審議官、藤崎寿府代大使ほか
米 国 シュワブ通商代表、ジョハンス農務長官ほか
E U マンデルソン貿易委員、フィッシャー・ボエル農業委員ほか
ブラジル アモリム外務大臣ほか
インド ナート商工大臣ほか
豪 州 ヴェイル貿易大臣ほか
ラミーWTO事務局長、ファルコナー農業交渉議長、ステファンソン非農産品市場アクセス交渉議長

3. 概要

- (1) モダリティ確立に向けて各国間の立場の隔たりを狭めるべく、農業の市場アクセス、農業の国内支持、非農産品市場アクセスの野心の水準とそのバランスの問題や、重要品目、特別品目(S P)、途上国向け特別セーフガード(S S M)等の問題について、集中的な議論が行われた。
しかしながら、各国の見解の隔たりが縮まらず、合意に至らなかった。
- (2) これを受け、ラミー事務局長から、交渉を中断することとし、そのことを非公式貿易交渉委員会に報告することとしてはどうかとの考えが示され、各国ともこれに同意。

非公式貿易交渉委員会(T N C)

1. 時間・場所: 7月24日(月) 15:10～17:40 於: WTO本部
2. 我が国からの出席者: 中川農林水産大臣、二階経済産業大臣、木下農林水産審議官、村上特別補佐官、吉村国際部長、大杉国際貿易機関室長、北村経済産業審議官、小川通商機構部長、藤崎寿府代大使、近藤国際貿易・経済担当大使ほか

3. 概要

(1) 冒頭、ラミー事務局長から、次のように発言。

2日間にわたるG6閣僚会合において、長時間、詳細な議論を行ったが、各国の立場の隔たりはあまりにも大きく、その溝を埋めることはできなかった。

交渉の状況は極めて深刻であり、本年末までに終結させることは困難。

すべての分野について交渉を中断し、すべての交渉グループのアジェンダ、作業の期限を停止して、各国が真剣に熟慮、再考する時間を設ける。

(2) 各国は、交渉が中断されることに失望感を表明しつつも、ラミー事務局長の発言に対して基本的に異議なし。主要国の発言は、次のとおり。

(我が国)この状態を放置すれば、多角的貿易体制の維持・発展、貧困からの脱却に大きな悪影響。香港閣僚宣言に従ってLDC無税無枠措置を2007年度に実施する考え。

(インド)先進国の多額の補助金、不透明な関税が途上国の食料安全保障、生計保障を脅かしている。一つの国が国内支持の実質的削減をせず、途上国の市場開放を強要しているが、これでは公平な結果をもたらさない。先進国の市場を開放し、途上国を貧困から救うことが今次開発ラウンドの趣旨であり、このことを認識して初めてラウンドの成功がある。

(EU)米国は、他の国が市場アクセスで柔軟性を示しているのに気付かなかったのか、国内支持で全く譲歩しなかった。EUは、貿易歪曲的国内支持全体を75%削減し、平均関税削減率をG20提案に近い50%まで上げ、重要品目の数、扱いについても柔軟性を示す用意があった。LDC無税無枠措置は、ラウンドの一括受諾とは関係なく、実施していく。

(ブラジル)数字のギャップはあるものの、基本的コンセプトは各国間で大きな隔たりはなく、合意の直前まで来ていたが、政治的決断がなかった。農業の国内支持の分野でももう少し前進があれば、他の分野においても前進があったであろう。今後数か月間はWTOにとって試金石となるであろう。

(米国)交渉のすべての分野について意味のある進展があった。G8サミット以降、議会、業界と協議し、追加的な柔軟性を示すつもりで来た。昨年10月の国内支持提案の下で、関税削減率は少し低目でもいいと考えていた。国内支持については、昨年10月の提案以上のことをする用意がある。他の国が関税削減の様々な「抜け穴」を考えており、これでは駄目。

(豪州)ケアンズ・グループは、10年の歳月を費やして今次ラウンドを立ち上げ、交渉を行ってきた。また、この5年間、前進のための努力をしてきた。野心の低い方法で終結に持っていくようなことはしない。